

後期授業評価（理工共通基礎科目）

都市教養学部（理工学系）・教授
伊與田 正彦

理工系共通基礎科目のFDアンケート調査を始めて3年目となり、当初の問題点であった数学における多人数教育および物理系科目における講義内容と学生の基礎レベルのミスマッチという問題も少しずつ解決されてきた。今回は平成19年度の後期行われた理工共通基礎科目の授業アンケート結果をまとめて紹介する。

今回のアンケート調査は、表1に示すように理工系共通基礎科目57クラスの履修登録者4238名とその授業担当教員62名を対象として行った。質問項目は問1～8が共通

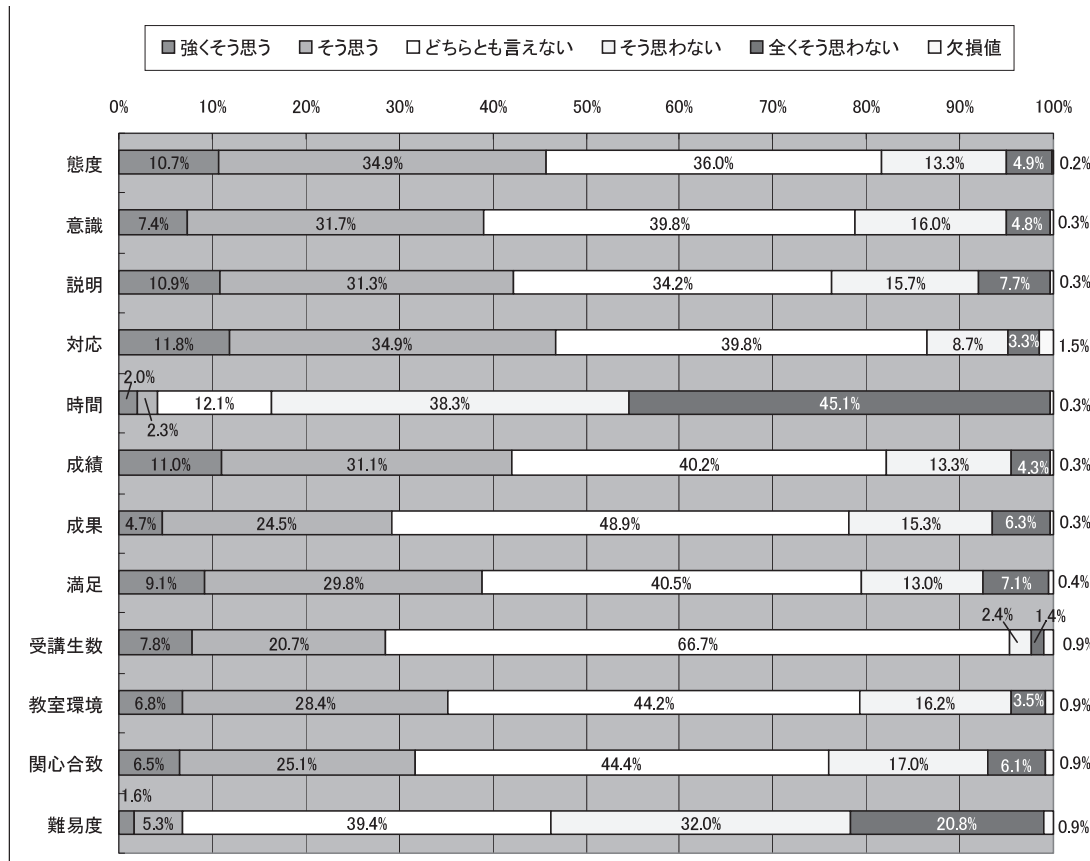
質問、問9～12が理工共通科目の個別質問である。得られた結果を表2に示す。表1からわかるように、アンケートの回収率の低さは授業への出席率の低さを物語っている。また、表2において、自習時間の低さと授業が難しい

表1 アンケート対象と回収率

	対象	回収数	回収率
SE	履修登録者	4238名	2282
	授業	57クラス	48
TE	授業担当教員	62名	48

質問項目 (SE)	略称
問1 私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	態度
問2 授業の目的を意識しながら学習することができた。	意識
問3 教員の説明はわかりやすかった。	説明
問4 教員は学生の質問・意見に対して適切に対応していた。対応	対応
問5 授業時間以外で一週間に平均どれくらい、この授業に関連した学習をしましたか？	時間
問6 成績評価方法について十分な説明があった。	成績
問7 シラバスに目標として掲げられている知識や能力を	成果
獲得できた。	
問8 私はこの授業を受講して満足した。	満足
問9 この授業の1クラスのサイズは適当であった。	受講生数
問10 快適な環境下でこの授業を受けることができた。	教室環境
問11 この授業のテーマは自分の関心にあっていた。	関心合致
問12 快適な環境下でこの授業を受けることができた。	難易度

表2. SE回答の度数分布図



と答えた学生の多さが今回のアンケートが示す問題点を如実に物語っている。この傾向は、他の都市教育科目群において得られたアンケート結果とも類似しているが、理工共通基礎科目の結果について次に少し説明を加える。

アンケート調査（SE）の問1-4のみを見ると、半数弱の学生は授業に目的を持って意欲的・積極的に取り組み、教員の説明・対応も問題ないように受け取れる。しかし、問5の勉強時間を見ると、1週間全く自習しなかった学生が45%、1時間程度勉強した学生が38%とその驚くべき実体がわかる。また、問6-8を見ると、やはり半数弱の学生が授業では教員による成績評価の説明が十分に行われ、シラバスに書かれている知識・能力が獲得でき、39%の学生が授業にも満足したと答えている。1週間に2時間以上勉強した学生はかなり授業に満足しており、1時間程度しか勉強しない学生の半数が授業に満足している実体とは何なのであろうか？

理工共通基礎科目の問題点となっていた1クラスの人数の多さと教室の狭さについては、まだかなりの学生が不満を持っており、教室環境の不備は完全に解決されたとは言えない。さらに、授業のテーマが自分の関心に合っていたと答えた学生が32%と低く、授業が難しいと答えた学生が53%いたことは、教員側に適切な対応を求めているものと受けとめている。

教員のアンケート調査（TE）結果についても紹介すると、問1-4では（この数字は意外であるが）52%の教員が授業に意欲的・積極的に取り組み、80%以上の教員が授業の目的を意識して教え、分かりやすく説明し、学生の質問に丁寧に答えていた。また、学生の1週間の勉強時間がゼロ時間と考えた教員は17%であったが、82%の教員は学生が週1-2時間程度しか勉強しないであろうと考えていた。成績のつけ方を正しく説明し、シラバス通りの知識がつくように教えたかという質問に関してもかなりの教員が肯定的に答え、さらに49%の教員が「学生は授業を受けて満足した」と答えていた。

1クラスの人数の多さ、および教室環境の不備に対する不満はより教員側に強く、46-48%の教員が改善を望んでいた。授業の難易度に関しては、44%の教員がやや難しいと考えており、学生ほどではないが、教員も難しい授業を行っていると考えていることが分かった。今回のアンケート調査で学生の意見と教員の意見が最も大きく違っていた点は、「教員は学生に授業のテーマに関心を持つように教えたか」であり、83%の教員が「学生がテーマに関心を持つように教えた」と答えたが、先に書いたように「授業のテーマが自分の関心に合っていた」と答えた学生は32%であった。これをクラス単位で見ると10%のクラスの学生が「授業のテーマが自分の関心に合っていた」と答えているが、これは自専攻の学生に理工共通科目を教えているクラスであろうと考えられる。

授業アンケートの自由記述部分から、マークシートとは違う各種の意見がでてくることが多い。熱心な先生に対して学生が厳しすぎると書いたり、易しい授業に対して高い評価を書いたりすることもある。さらに、授業について改めて欲しいという記述に、教員に対する誹謗と中傷をやたらたくさん書く学生もいるが、学生の意見の中には参考になるものも多いので一部を紹介する。

自由記述（担当教員への意見）

- 問1 この授業について改めて欲しい点を、可能であれば具体的な提案を含めて記述して下さい。
- 問2 この授業で特に良かった点、他の授業でも取り入れて欲しい点などを記述して下さい。
- 問3 その他、授業やカリキュラムについて、自由に記述して下さい。

問1の記述が最も多く、教員への不満がいろいろな観点から書かれている。若い教員は熱心に授業に取り組んでいる姿勢がわかるが、学生側からは板書のスピードが早く、内容が多すぎ、黒板をすぐに消すというコメントが返ってくるようになってしまう。理工学系では「おもしろい授業」を行うための講演会を開いているので、ぜひ参加して授業の組立てを考える際の参考にしてほしい。

問2では、(1) 授業のレジュメを作って渡す、(2) ホームページに授業内容を掲載する、(3) 授業の終わりに演習・小テストをする、(4) 宿題を出すなどが好評であった。学生アンケート（SE）の結果から、83%の学生が1週間に1時間以下しか自習しないことを考えると、授業中および試験前に効率的に勉強できる授業スタイルが好まれているようにも読み取れる。

問3については、今回のアンケート調査が後期であったために、受講学生が大学のシステムに慣れてきており、極端な意見は少なかったが、教員に対する不満を書く学生があい変わらず多かった。SEが学生の不満のはけ口に使われているとは信じたくないが、教員側とも言われることに慣れて「SEが狼少年化」していくことを最も恐れる。